ART PROJECT TAKASAKI 2020

進 捗 するアートの力

＊ 展示場所や作品等、変更になる場合がございます。ご了承ください。
＊ 番号は裏面の会場案内と共通です。

私たちが新しい日常生活を受け入れ始めておよそ半年が経過しました。
この期間さまざまな行動が制限され、「美術館に行ってアートを鑑賞する」「まちに出てアートを楽しむ」――といった当たり前のことさえできなくなる日々が続きました。
しかし、このことがかえって私たちにアートの力を再認識させてくれる機会になったのではないでしょうか。
この半年間、多くの展覧会が中止になりました。けれどもアーティストたちの心は決してひるむことなく、その制作意欲が衰えることはありませんでした。むしろ彼らのイマジネーションは進化を続け、進捗し、私たちに新しい可能性を見せてくれようとさえしています。

今回のアートプロジェクト高崎2020には、過去最大となる24人のアーティストが参加しています。高崎のまちに多くの作品が並び、それらが実に個性的な空間を創り出していきます。彼らが見出した新たな可能性の表現を、ぜひ現地でご覧になってください。そして、新しい日常の中でも当たり前のようにアートと接することのできるよろこびを感じてもらいたいと思います。心豊かな都市空間を体感し、進捗するアートをぜひお楽しみください。

1·16 鮫島 大輔［Daisuke SAMEJIMA］

「Big Flatball」2019年 FRP、アクリル絵具

1979年兵庫県尼崎市生まれ。
2005年多摩美術大学美術学部大学院美術研究科 博士前期課程絵画専攻修了。
APT2019に参加。風景を描いた球体によって不思議な空間を作り出した。

2 渡辺 香奈［Kana WATANABE］

「The River」

1980年岩手県盛岡市出身、高崎市在住。2005年慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修了。スペインのリアリズム絵画から学んだ写実描写を駆使し、時とともに移ろいゆく花や、物語を纏う風景・人物などを描く。2011年第8回上毛芸術文化賞〈美術部門〉、高崎市功労者。

3·19 フランキー スィーヒ［Frankie CIHI］

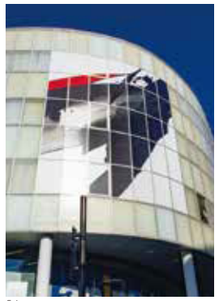
アートパーク高崎東 壁画

1988年 東京生まれ。
日本とアメリカをルーツにもつアーティスト。
2010年ニューヨークの美術大学School of Visual Artsで学士号取得。現在は、東京を拠点に活動している。
その作品は、キャンバスから大規模な壁画まで多岐にわたる。

4 豊田 玉之介［Tamanosuke TOYODA］

1988年群馬県高崎市生まれ。1回目のアートプロジェクトに参加。
2011年信州大学教育学部芸術教育専攻美術教育分野卒業。
高崎市在住。
おもにイラストを制作している。

5 井上 純［Jun INOUE］



「上」

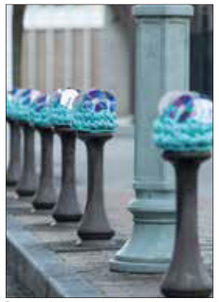
ファッションや音楽ともリンクし多技に渡り作品を発表。国内を始め、海外ではメルボルン、パリなどでも数々の個展を開催している。
2017年からAPTに参加。キッズワークショップなども行った。

6·15 大竹 夏紀［Natsuki OTAKE］

「アクセサリーガール」

1982年 群馬県富岡市生まれ。
2008年 多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。
染色の伝統技法である蝋けつ染めで、絹布に染料で絵画を制作、国内外で作品発表をしている。

7 力石 咲［Saki CHIKARAISHI］



「Spangle 高崎/世界/高崎/世界/高崎/世界/高崎/世界/高崎」2020年 アクリル糸 DVD

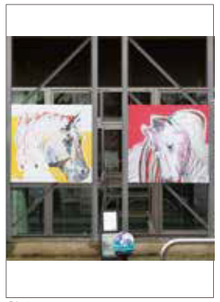
1982年埼玉県生まれ。
編み物をコミュニケーションメディアとして、「世界を編み包む」をテーマに、自身を取り巻く世界をニットという手法で編集し作品として提示する美術家。
近年は街や空間を文字通りニットで編み包み、景色を一変させるインスタレーションやプロジェクトを各地で展開している。

7 平岩 葉子［Yoko HIRAIWA］

「秘密の花園」2020年 陶土、釉薬等

1984年東京都生まれ。
桐生市在住。多摩美術大学工芸科陶専攻卒業。東京芸術大学大学院陶芸専攻修了。人間をモチーフに内面や心情、どこかにいそうなあの人をテーマに彫刻作品を制作。

8 キール ハーン［Kjell HAHN］



「午年」

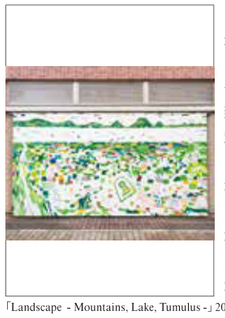
1978年アメリカ・ミズーリ州生まれ。2001年トルーマン大学卒業。22歳で初来日し、2013年からは群馬県藤岡市鬼石でアーティスト・イン・レジデンス「シロオニスタジオ」を経営。

9 川島 一恵［Motoe KAWASHIMA］

「superorganism」2020年 木材、紙、インクジェットプリント

1984年群馬県富岡市出身。
今回は山で切り倒された様々な木々から新しい木を作り出し、葉には生命が増殖していくイメージで描いた絵をプリントする。力強く生命が再生する様子を表現する。

9 衣 真一郎［Shinichiro KOROMO］



「Landscape - Mountains, Lake, Tumulus -」2020年 アクリル、木製パネル

1987年群馬県生まれ。東京造形大学絵画専攻卒業、パリ国立高等美術学校交換留学を経て、2016年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。主な個展に2019年「project N 75 衣真一郎」東京オペラシティアートギャラリー、近年の滞在制作に2017年「群馬県ゆかりのアーティストによる滞在制作事業」アーツ前橋。

10 高橋 洋直［Hironao TAKAHASHI］

「crusher」2020年 鉄

1987年栃木県鹿沼市に生まれる。
2009年文星芸術大学美術学部彫刻専攻卒業。
日常に使われるものから虫などをモチーフにした立体作品を発表している。
APT2019に参加。

10·17 茂木 康一［Koichi MOGI］

「SANPI」2020年 鉄、ステンレス

1973年群馬県高崎市生まれ。1991年独自に金属加工を始め、独創的な作風を習得。
自然界の造形美に興味を持ち、幼少期より続く日々の観察で詰め込まれた膨大な形を自身の曲線として表現している。

11 津久井 ひとみ［Hitomi TSUKUI］

「楽園の予感」

群馬県桐生市在住。旧山田かまち水彩デッサン美術館元代表、広瀬毅郎氏に師事。
実在する場所や人物から、心に浮かんだストーリーを表現した絵画を制作。
今回、楽園に見立てた高崎市を表現。

11 吉野 もも［Momo YOSHINO］

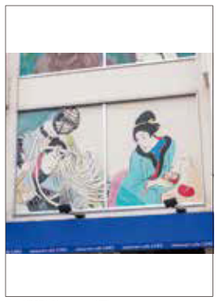
1988年東京生まれ。
2012年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。
2014年、ロイヤルアカデミースクール交換留学を経て2015年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士課程修了。

11 福田 絵理［Eri FUKUDA］

「昼と夜の輪郭、世界の距離」

1988年東京生まれ。
2013年武蔵野美術大学造形学部油画学科油絵専攻卒業。
2015年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。

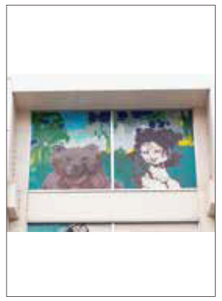
12 岸 恭平［Kyohei KISHI］



「倉賀野街道古今東西」

1978年群馬県生まれ。
2006年東京芸術大学油画卒業。
十代後半、高崎で美術を学ぶ。自動車やバイクと日本美術の要素を構成のきっかけにして、メタリック塗料などで平面作品を制作している。

12 温井 大介［Daisuke NUKUI］



「竹林女と熊」

群馬県生まれ。藤岡市在住。高崎で美術を学ぶ。東北芸術工科大学卒業選抜賞受賞。
群馬県を中心に作品を発表、展示のキュレーションを行う。
今回の目標はがんばって良い絵を描くこと。

13 圓山 和幸［Kazuyuki MARUYAMA］

「水沼と水の女のはなし より」

1976年大阪府生まれ、2002年多摩美術大学院美術研究科絵画専攻版画研究領域修了。
2011年より群馬県桐生市に移住し、忘れられた物語や記憶、それに関連する桐生の絹織物のルーツを探る作品を制作。

13 TAKU［TAKU］

「蟷螂」「GOOD BEER SUNDAY」

2001年生まれ。
群馬県高崎市出身。中学生時代、父と訪れた高崎市内のマイクロブルワリー（シンキチ醸造所）において、コピー用紙に油性マジックペン（マッキー）で絵を描き始める。

14 遠藤 夏香［Natsuka ENDO］

「余白の飲みもの」（部分）

1984年群馬県生まれ。
2010年武蔵野美術大学大学院造形研究学科油絵コース修了。
制作する場所の過去や痕跡、現在そこにいる人間の言葉や物語をきっかけに身体的・直接的なアプローチでイメージと空間を作る。

15 タムラサトル［Satoru TAMURA］

「モーター・ヘッド・シャーク」

1972年栃木県生まれ。
1995年、筑波大学芸術専門学群総合造形専攻卒業。
なんの背景ももたない、思想的に真っ白な作品をめざし、意味の破壊をテーマに作品を制作。
2017・2019年のAPTに参加。

18 nemographics(nemoto tsuyoshi)

『キイロイさん・うごく。』

1975年生まれ桐生市在住。武蔵野美術大学造形学部卒業。
個人表現から商品企画、企業広告、ワークショップ、デザイン教育まで活動は多岐にわたる。
今回はアニメーションにて『happy yellow』な世界を届けたい。

18 阿部 浩之［Hiroyuki ABE］

「ノルデンショルドのイチョウ」

1985年栃木県生まれ。
東京都在住。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。
滞在した地域で出来事や記憶を調査しながら、外部からやってきた人のあしあとを追いかけ、制作を行う。